



新年

あけましておめでとうございます。いよいよ3学期がスタートしました。これまでのまとめとともに、新たな学年への準備の時間でもあります。大きな区切りとなる学期です。大切に過ごしてほしいと思います。保護者の皆様におかれましてはこれまで同様、ご支援とご協力のほどよろしく申し上げます。



この写真は本校のクラブ活動で、生け花クラブのご協力をいただいている先生に玄関に飾っていただいたものです。新たな年を迎えるにふさわしい作品で、3学期のスタートを彩っていただきました。松は強い生命力を、竹は未来への成長を、梅は喜びを、南天は難を転ずるなど、それぞれに意味があり、これからの社会を担う子どもたちの学校生活をより充実したものにしたいという願いが込められているようです。

願い

ある調査で「どんな子どもに育ててほしいか」という質問がありました。その結果、第1位は「思いやりのある子」2位は「自分に自信が持てる子」3位は「友達を大切にできる子」となったそうです。では、どうすればそのように育っていくのでしょうか。



大人は自分と関わりのある子どもに対して「願い」を持つようになります。願いというより、できるようになってほしいことかもしれません。お手伝いができる、一人で眠れる、進んで宿題をする、好き嫌いせずよく食べる、など例を挙げるとたくさん出てきそうです。では、これらができれば「思いやりのある子」「自分に自信が持てる子」「友達を大切にできる子」になるのでしょうか。確かにこれらの基本的な生活習慣は感性を育てるための重要な要素の一つです。さらに大切なのは、肯定的な言葉かけです。

これらの「できるようになってほしいこと」は、大人にとっては「できて当たり前」のことであるため、できていないと否定的な言葉が出てきます。「また〇〇してない。何度言ったら分かるの!」「そんなことじゃだめだ。何でちゃんとやらないんだ!」など。その言葉に愛情が込められていたとしても、子どもにとっては不安が残ってしまいます。子どもの言うことを全部聞くということではありません。子どもたちは、できるようになったらそれが当たり前となり褒めて認めてもらうことが少なくなります。できるようになるために頑張っている途中ならそれができるまで、できるようになったらそれが続くように応援する言葉が子どもたちにとって大切です。



初めて我が子の声を聴いたとき、初めて寝返りを打った時、ハイハイをしたとき、立って歩いたとき、それだけで感動した時を思い出してみませんか。子どもたちは大人の言動をしっかりと聞いています。子どもの社会は大人の社会を反映しています。3学期に本校で取り組みたいことの一つは、周りの人のいいところを見つけることです。まとめの学期として保護者の皆様方にも、子どもたちのいいところを見つけるためのご協力をお願いします。